



第84巻 第1号
年4回発行
社会福祉法人 慈生会
〒165-0022
東京都中野区江古田3-15-2
TEL 03-3387-5567
http://www.jiseikai.jp
振替口座 ベタニアの家
00170-6-15317

希望によって歩む(ローマ5の5)

シスター田代 嘉子

主のご降誕と

新年のお喜びを申し上げます。

旧年中皆様から賜りましたご好意に感謝申し上げますとともに、本年も一層のご協力を賜りますようあらためてお願い申し上げます。

遠い先の話かもしれませんが、二〇〇五年頃の日本の総人口が一億人割れの寸前まで減少する中、一人暮らしの高齢者と日本で生活する外国人が大幅に増え、共に一千万人の大台を超える可能性があり、人口構成



(ご像の説明)一九五一年八月十五日にフランスに本部のある「ヌベール愛徳修道会」総長より「ルルドの聖母像」が贈られ、徳田保育園に設置された。二〇一二年九月、新・聖ベルナデッタ修道院祝福落成後に建物中庭に移動、台座は伊藤哲一氏制作の石彫刻。

が大きく変わりそうという話を聞きます。そうすると貧困や孤立が広がり、新たな格差社会になってしまふのではないかと、見えないそのような社会を不安に思っています。新年早々暗い話になってしまいました。カトリック教会では二〇二五年が『聖年』であり、『聖年』は二十五年に一度しかチャンスは巡ってきませんが、今回の『聖年』では、二〇二〇年から世界を襲ったパンデミックをはじめ、終わりの見えない紛争など、困難な状況にある世界に希望のメッセージを届けるために、「希望の巡礼者」というテーマが掲げられていることをお伝えしたいのです。絶望が広がる文明の中で、社会、若者と高齢者、病者、教会、そしてわたしたち一人ひとりに、フランシスコ教皇は希望の必要を説かれ、私たちの毎日を神が与えてくださる希望の賜物で満たし、私たちを通して、それを求めるすべての人に届くようにしよう。『希望は決して裏切

らない』ということを忘れないようにしよう」と、呼びかけています。第二次世界大戦中、旧ナチス軍による強制収容所から奇跡的に帰還したフランクル博士も、生き延びた人たちは、希望を最後まで捨てなかつた人たちでした。決して欺かれぬ絶対の信頼や安心感を生きる望みと力を強めるのだと思います。

創立者フロジャク神父様も昭和二年、初めて結核患者の悲惨な状況を知り、療養所訪問を続けるうち、やむにやまれぬものに突き動かされ、手を差し伸べていく姿は、いかなる事が起こるか先行き不明な時代にあつても、最終的には「希望によって歩む」(ローマ5の5)こと、神とその言葉を信じて生きることなのだ、私たちに教えておられるように思います。キリスト・イエスによって示された神の愛、それはわたしたちが常に生きる望みを見出す拠り所なのです。

わたしたちは、互いのことに関心を払い、互いに配慮し合う愛をもって隣人の輪を広げ、世界の人々と繋がって、世界平和の実現という人類最大のテーマを共に、なっていく者になりたいと心から願っています。新しい年が希望の光で包まれますように。

(慈生会理事長)

謹んで主のご降誕と新年のご挨拶を申し上げます、皆様の上に豊かな恵みをお祈り致します。

社会福祉法人 慈生会

理事長 Sr・田代嘉子

役員一同

徳田保育園

中野トータルサポートセンター

ベタニアホーム

慈しみの家

ベタニア・デイ・ホーム

中野北ベタニア訪問看護ステーション

慈生会中野ケアプランセンター

ベタニアヘルパーステーション

中野区江古田地域包括支援センター

ナザレツトの家

ベトレヘム学園

聖家族ホーム

聖ヨゼフ老人ホーム

慈生会清瀬ケアプランセンター

ベトレヘムの園病院

マ・メゾン光星

指定相談支援事業所 ノエル

放課後等デイサービス エスポワール

多機能型事業所 フルール

学校法人 東星学園

(幼・小・中・高等学校)

理事長 Sr・田代嘉子

役員一同

ベタニア修道女会

総長 Sr・田代嘉子

姉妹一同

地域と共に

菊地 清樹

障害者の相談支援は2006年に施行された「障害者自立支援法」が元になり、障害等のある方々が在宅で自立した生活を営むための支援体制の確立のために「相談支援専門員」という専門職が位置づけられました。当事業所は那須町の委託を受けて平成24年から地域福祉に携わっており、現在は4歳から79歳の方々まで年齢や障害種を問わず相談に関わっています。また、那須町の自立支援協議会の運営に協力し、各関係機関と協働しながら地域の課題を踏まえたサービス基盤整備を進めていく役割も担っています。困っている方々が地域の福祉や資源に繋がりを、自分の生活を取り戻せた事を一緒に喜び合う時はお互いに幸せを感じる瞬間です。しかし、県内で第2位の高齢化率である那須町でも8050問題をはじめ支援が複雑化・複合化している現状にありません。益々一つの機関の努力だけでは届かなくなってきました。その為、多機関連携によるシステム(重層的支援体制)が求められています。今まで以上に各関係機関との連動性を高める事がポイントになります。課題は沢山ありますが田舎の小さな町ならではの利点を生かして一人でも多くの方々が慣れ親しんだ地域の中でいつまでも自分らしい生活を送る事が出来るように、多機関の方々と更に力を合わせて進めていきたいと思っています。

(相談支援事業所ノエル管理者)

「うれしさと さみしさと」

阿部 海渡



放課後等デイサービスエスポワールが開設され、間もなく8年目を迎えるようになっています。令和5年4月に多機能型事業所フルールが開設されてからは、那須町のみならず近隣の市町からも利用したいとお声をいただくようになりました。学校を卒業してからも居場所があるという事が、ご家族の安心感につながっています。今年度は2名がエスポワールからフルールへと移行されました。開設当初からご利用いただいていたお二人、一步一步階段を登るようになって成長していく姿を間近で見守らせていただきました。そんなお二人が道を隔てて隣接するフルールに初めて来所された日は、私たちがそわそわ。気付けば窓からフルールを眺め、何をしてもフルールにいるお二人が気になって仕方ありませんでした。今ではすっかりフルールに慣れ、よく知った笑い声が聞こえる度、安心すると同時に一抹の寂しさを感じる今日この頃です。

(放課後等デイサービスエスポワール 管理者)

笑顔あふれる地域に

大場 秀子

江古田地域包括支援センターは、平成十八年から社会福祉法人慈生会が中野区より委託を受けて運営しています。江古田四丁目の北部すこやか福祉センターの二階にあり、昭和三十年代に建てられた歴史ある場所です。乳幼児健診なども行われ、区の保健師さんたちと連携しやすい環境が整っています。

センターは八名の専門職(社会福祉士三名、保健師、看護師、主任介護支援専門員二名、介護支援専門員)と事務員で構成され、女性が多く明るく元気の職場です。地域のみなさんが安心して暮らせるよう、高齢者やそのご家族の悩み事を一緒に考え、解決するお手伝いをしています。介護の相談やケアプランの作成、必要な支援の提供など、訪問してサポートすることもあります。また、認知症の予防や早期発見、見守り活動にも力を入れ、今年度から「くらしの保健室 認知症ルーム」も開設しました。地域の皆さんが安心して暮らせる環境づくりを進めるとともに、元気に過ごせるよう介護予防にも力を入れています。

私たちは「地域と共に」を大切に



し、地域のサロンや交流会等の活動をお手伝いしています。

地域の皆様とのつながりを大切に、笑顔あふれる暮らしが続く地域を一緒に築いていきたいと考えています。地域の関係機関や民生委員の皆様と協力しながら、これからも手を取り合い、支え合いながら、安心して暮らせる地域を作っていきたいです。

誰もが自分の役割を持ちながら、支援を受ける側でもあり支える側にもなれる、そんな温かい地域を目指しています。

(江古田地域包括支援センター所長)

オランダ視察団をお迎えして

坂本 真理

十月十六日、オランダより総勢二十名の視察団の皆様をお迎え致しました。メンバーの皆様は、介護施設、住宅組合、保険会社、自治体等で役員を務める方々で、オランダでは毎年予算を組み、経営者レベルの方々の研修が義務付けられているとの事です。視察の目的は、日本と同じく急速に高齢化が進んでいるオランダで、新たな社会課題に対処するためには新しく革新的な解決策が必要とのことで、長年にわたり高齢化社会への対応を進めてきた日本を視察しヒントを得たい、というものでした。

視察当日は、ベタニアホーム、在宅部門、デイホーム、ケアハウスを見学後、地域交流スペースにて意見交換を行いました。慈生会として、薄井常務理事、トータルサポートセンターとして、関センター長、中村施設長、池谷副施設長が参加し様々な意見を交わしましたが、やはり日本とオランダ共通の課題としては「人材不足」が挙げられました。

オランダの介護施設では一人のスタッフが百人の利用者様をケアするという事で見守りカメラなどのテクノ

ロジーを活用しているとの事です。また、驚いたのは、居室のお掃除などはご家族にお願いしているケースもあるという事です。この取り組みに関しては、ご家族の事情にも異なりますが、可能な方にはある意味介護に参加して頂ける機会にもなり施設入所後も、ご家族と繋がる機会としてポジティブに捉えても良い事であると感じました。



今回、視察団の皆様をお迎えし、今まで経験した事の無い社会の変化に対応するには、柔軟な考えと方法で乗り切る必要があると強く感じました。

(中野トータルサポートセンター
地域支援グループ長)

「ベタニアの家チャリティコンサート」に参加して

実行委員長 西山 悦子

二〇二四年十二月十日の午後、野方区民ホールにてベタニアの家チャリティコンサート、クラリネット&サクソ奏者の鈴木直樹先生とピアノの田中和音先生をお迎えし、「HAPPY JAZZ TIME」が開催されました。「ムーンナイト・セレナーデ」「枯葉」などのスタンダードナンバーが、クラリネットの深みのある豊かな低音域から始まり、フィナーレのあの輝かしく響き渡った高音域が、私たちの魂を揺さぶり、清



めてくださいました。第二部の鈴木先生と田中先生のユーモアたっぷりの絶妙な掛け合いによるジャズ版クリスマスソングは、私たちを心から楽しませてくださいました。



十二月十一日、聖ヨゼフ老人ホームは明日から始まる仮設工事の準備に追われましたが、昨日参加をした利用者さんらが、私の姿を見つけて駆け寄り、「昨日は本当に楽しかったですわ！」と目を輝かせて報告をしてくださいました。頂いたパワーで又、皆で頑張ります。

最後にチケットの売り上げとご寄付の総額は七二三、三〇五円となりましたことをご報告させていただきます。
(聖ヨゼフ老人ホーム 施設長)

